

令和2年第8回 大田原市教育委員会定例会 会議録

開催日時		令和2年7月15日(水)		午後4時00分	
開催場所		102会議室			
会議出席状況	教育長	植竹福二	出席		
	委員	深澤道昭	出席	川上聖子	出席
		小林朋子	出席	森泉	出席
		渡邊英憲	出席		
	事務局職員	教育部長	大森忠夫	生涯学習課長	津久井静男
		教育総務課長	高野浩行	文化振興効果主幹兼文化財係	生田目友里子
		学校教育課長	明澤伸宏	スポーツ振興課長	熊田明美
国体推進課長		大島実			
書記	教育総務課	伊東佳子、松本一弘			
付議事項	○ 報告 1 件		〔報告第 30 号～第 30 号〕		
	○ 協議 1 件		〔協議第 30 号～第 30 号〕		
	○ 議案 1 件		〔議案第 30 号～第 30 号〕		

- 1 開 会 午後4時00分
- 2 前回会議録の承認
- 3 議 事
日程第1 議案第 30号 令和3年度使用教科用図書の採択について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会 午後4時53分
- 6 傍 聴 人 8名
- 7 会議の要旨 次のとおり

令和2年第8回大田原市教育委員会定例会 発言要旨

令和2年7月15日(水)午後4時00分から

- 教育長(植竹福二君) 　　ただいまから令和2年第8回大田原市教育委員会定例会の会議を開きます。
- 教育長(植竹福二君) 　　第7回定例会の会議録は、書記をもって調製させましたので、順次回覧いたします。内容をご確認いただきたいと思います。
- (会議録順次回覧)
- 教育長(植竹福二君) 　　会議録の内容についてご確認いただきましたが、第7回会議録につきまして承認いただけますか。
- (異議なしの声あり)
- 教育長(植竹福二君) 　　異議はないようでありますので、第7回の会議録は承認されました。委員会閉会后、ただいまの会議録に署名をお願いいたします。
- 教育長(植竹福二君) 　　傍聴人の皆様をお願い申し上げます。一般及び報道関係者のカメラ撮影及び録音はここまでとさせていただきますので、撮影等を中止してください。
- 教育長(植竹福二君) 　　本日付議いたします案件は、議案1件であります。それでは日程に従い会議に入ります。日程第1 議案第30号 令和3年度使用教科用図書の採択についての議題といたします。詳細について、学校教育課長から説明をお願いします。
- 学校教育課長(明澤伸宏君) 　　(説明を行う)
- 教育長(植竹福二君) 　　説明が終わりましたので、順次各委員からご意見を伺いたと思います。
- 委員(深澤道昭君) 　　教科用図書の選定については、大変重要なことであることを認識しています。については、各社の教科書を自分なりに目を通しました。中でも、歴史と公民については少し時間をかけて見させていただきました。構成や表現の仕方に差はあるものの、いずれも考えつくされた立派な教科書ばかりでした。また、私は昨日の教科用図書選定委員会に、一委員として出席しておりました。そして、その場で各教科ごとに複数の調査の先生方によって調査・研究を行った結果について、代表者から発表がありました。その内容は、採択の基本方針に則り、細部に渡って調査・研究がなされ、良く分析されているとの印象をもちました。他の委員も同じような印象を持ったようでした。

よって答申は、それらを踏まえてのものであると考え、内容には問題がないものと考え、私は答申のとおりで良いと考えます。

そして、子どもたちが、これらの教科書を基本にしっかり学び、さらに上の学校に行っては、より深掘りをしていただいて、今後更に進展するであろうグローバル化社会において、人生を楽しく生き抜いていただければいいと思います。

○委員（森 泉君）

学生時代に社会科目が苦手だったので、的外れな意見になってしまうかもしれませんが、読み比べた中で感じたことを述べさせていただきます。

歴史の教科書について、今回も育鵬社が選定されたわけですが、太平洋戦争時の記述では、「侵略、殺害、奇襲」などの言葉自体が、他の教科書と比べると使われていない一方で、連合国側の不合理な要求については、他の教科書では見られない表現が際立っている箇所が、随所に見られました。

従来の歴史教科書が日本のネガティブな側面を強調しすぎているという指摘に対し、これを改善していこうという流れで捉えられた教科書だと思います。

記述に違いはありますが、文部科学省の検定を受けてきたわけでありまして、日本の良いところを紹介する部分も多く、私は大きな問題はないと思います。

歴史の勉強というのは、より多くの史実を知り、そこから学び考えるものだと思いますが、史実の捉え方には、違った考えや裏側の見方があるのは当然でして、勝者と敗者、支配者と被支配者、立場の違いで視点が変わる中で、育鵬社の教科書は問題だという指摘も見られますが、史実をよりよく、深く知ろうとする機会になるものと考えます。

本市の中学校の歴史教科書の選定については、これまでも注目をされてきたわけですが、その注目ゆえに現場の先生の努力もあり、他よりも丁寧に歴史の見方の違いを教える授業が行われていると自負しておりますので、採択に意義はありません。

また、他の教科についても専門の先生方が分析され、選定委員会を通ってきたものですので、賛成であります。

○委員（渡邊英憲君）

最初に結論を申し上げますと、現場の専門とされる先生方が教えるに適していると考えられたものですので、それを尊重しまして、今回選定された教科書を採択することについて賛成いたします。

中学校の勉強というのは、高校受験への準備という部分があることは避けられませんが、高校、大学へと進学し専門的な勉強をするための基礎と、専門的分野への興味を持たせるためのものだと思いますので、今回の教科書はこれに対して妥当であると思います。

また、全ての教科において国際化、ICT化の要素が見られ、グローバルな視点に立った内容になっている点も良いと思います。

個別の教科で申しあげれば、技術家庭の教科書が私たちの頃とは随分と違って、生活科的な要素があって、非常に素晴らしいと感じました。

数学や理科、それと地理といったものは、学問的に普遍的な部分が多くあると思いますが、一方で国語や英語、音楽、体育、美術といったものは教える先生の感性が大きく影響を与えるもので、教科書のみでは語れない部分があると思いますので、独自の教え方を深めていただければと思います。

逆に学問的にも変わる部分が多くあるものとしては、生物や歴史なのだと思います。「ダーウィンの進化論」が、いずれの生物の分野にも登場していますが、その説明は「生物は環境に適応したものが生き残ってきた」というように、話がさっと簡単に終わっています。

しかし、現在の生物学においては、ダーウィンを否定する考え方など、様々な議論がなされていて、時代の流れの中で一つの大きな学問にもなっているようです。

同じように、歴史の授業においても、自分が学んだ頃は近代史を教えてもらう時間が少なく、さっと進められていたと思います。

今回の教科書に、生徒が「ヒトラーは何故国民に支持されたのですか」という質問をしている箇所があるのですが、我々の時であれば、なんとなく「ヒトラーは殺人狂で、日本は喜んで戦争に突き進んで、負けて、最後には反省しなくてはならない」のような、テストを考えれば、余計なところに深くは触れずに流されていたように思います。

それと比べますと、選定された教科書は、近現代史に費やすページ数も多く割かれていて、中学校での歴史教育においてもこの時代に重点を置くことで、今度は近代史以前の部分についても、温故知新ということで、なぜ起きたのかという原因を考えるきっかけになり、近現代へつながりやすい構成になっていると感じました。

特に歴史は、どうしてその状況になったのかを踏まえつつ、これから私たちはどうしたらいいのかということをつめるための学問としてあってもらいたいと考えます。

大田原市が育鵬社の教科書を使っていることが問題だとされていること自体を問題として捉えて、現場の先生方にはそのことを議論する方向に持って行ってもらいたいと、様々な意見が出てくることを私たちはどう受け止めるかという話に行っていたきたいと思います。

○委員（川上聖子君）

私は、今回の教科書を読むにあたって、自分が生徒だったらという立場で読ませていただきました。写真や表、イラストなどが多く、今の教科書は資料集と一体化しているように感じまして、楽しんで読ませていただきました。

国語ですと、全ての教科書に、1年生では「少年の日の思い出」、2年生では「走れメロス」、3年生では島崎藤村の「初恋」、松尾芭蕉の「奥の細道」がありまして、自分が中学生でなくても全部を読める喜びがありました。

私が中学生だったら、この教科書がいいなと思うものが2つ選定されていました。

ひとつ目が啓林館の理科でして、教科書の名前が「未来にひろがるサイエンス」という非常に興味を持たせるような名前で、絵や写真、表が多くあって、とても読み易くて、どんどん読み進められる印象を持ちました。

ふたつ目は英語でして、三省堂の「CROWN」が選定されましたが、内容が身近なことで学びやすいと感じました。

私自身は、学生の際は数学が一番好きでしたが、現在アクティブラーニングが進められていると思いますが、全ての教科書が入試に合格するための勉強ではなくて、将来を見据えて、「こういったときに数学のこういった部分が使われるんだよ」という掲載が沢山ありまして、特に数研出版の「数学旅行」などが目を引き

したが、数学の面白さを伝えていました。

現在、私が障がい者のカフェを運営する中での食数を考える際の話になりますが、食事の予約数の約3倍の食数を用意しておけば、だいたい一日の食数に合ってくるという、4年間の傾向を見る中で、統計的な観点から実感しておりまして、また食事の原価計算などにも数学の考え方をを使って構成させるのですが、こんな時に使えるという数学の捉え方が大変面白いと感じました。

社会で面白いと思ったのは、教育出版の見出しでして、例えば公民で言えば、「自由って何だろう」と見出しがあって、かっこ書きで「自由権」と続き、「人間らしい生活とは」と見出しがあって、「社会権」と続くように、自分が生徒だったら「人間らしい生活に社会権がつながっているんだ」というような、そういった見出しは大変魅力的でした。

基本的には、選定委員が選ばれた教科書というのを尊重したいと思います。

やはり、現場で子どもたちに何を教えていくのか、例えば現代社会では、世界情勢を見ると、国同士の争いが見られますが、そういったニュースを聞くたびに、子どもたちには平和を作る教育をしてもらいたいなと思います。

そのためには、どのような教科書であっても、先生方には子どもたちに心が芽生えていくように教えていてもらいたい、そこに重点的に関わっていただきたいと、例えば人を許すということによって、子どもたちがこれから歴史を、社会を作っていくということを、現場の先生にご苦労いただきながら、生徒に伝えていただきたいと思います。

○委員（小林朋子君）

どの出版社も工夫されていて、考えられて作られていると感じました。

私も川上委員と同じように、自分で読んでいて楽しい、入っていけることを重視して見させていただきましたが、自分が勉強していた頃よりもカラフルですし、写真やイラストがたくさん盛り込まれていて、こうした傾向は、今の生徒が興味を示すためには必要な要素なのかなと感じました。

選定理由の中にたくさん出てきていますが、「主体的に学習を進める」とか、「自分の考えを伝える」とか、そういった点が多く見られる教科書が選ばれたのかなと思います。

ですので、私もこの選定委員会の内容でよいと思います。

○教育長（植竹福二君）

ありがとうございました。ただいまの各委員の意見に対してご質問はございますか。

（質疑を行う）

○教育長（植竹福二君）

質疑はないようでありますので、質疑を終わります。

お諮りいたします。

議案第30号 令和3年度使用教科用図書採択につきましては、原案のとおり採択することに賛成する委員は、挙手をお願いいたします。

（全委員 挙手）

○教育長（植竹福二君）

挙手全員と認めます。よって本案は原案のとおり採択することといたしました。

以上をもちまして、本日予定されました案件はすべて議了いたしました。
なお、その他で何かございますか。

○教育長（植竹福二君） 特にないようですので、以上をもちまして令和2年第8回大田原市教育委員会定例会の会議を閉会いたします。
ご苦労様でした。

閉会：午後4時53分

この会議録は、令和2年7月17日に調製されたものであるが、その内容に相違ないことを認め、ここに署名する。

令和2年8月19日

教育長

委員

委員

委員

委員

委員

調製者